

2. はじめの一步をどうやって踏み出すか

実際に、調査データを扱う場合に、データを分析できる状態にもっていく必要があります。はじめの一步をどうやって踏み出すかは、じつは意外と面倒なのです。

自前で調査をして、手元に調査票がある場合を考えてみましょう。この場合には、まず、調査票をもとに素データファイルを作成します。本マニュアルは、基本的にこの場合を想定しています。

しかし、それ以外に、すでにデータ・クリーニングの終わったデータセットが手元にある場合や、異なる形式のデータセットが手元にある場合も考えられます。これらの場合には、ケース・バイ・ケースで「達人の道」への接続を図らなければなりません。

それぞれの場合にわけて、おおまかな作業手順を示しておきます。

2.1 調査票から素データ・ファイルを作成して、分析する場合

回収された調査票が手元にあり、これからすべての作業に取りかかる場合、作業手順の概要は、つぎのようになります（図 2.1 参照）

①素データ・ファイルの作成

調査票をもとに、素データ・ファイルをテキストファイルとして作成します（→3）。この作業は、エディタやワープロソフトなどを利用しておこないます。

② SPSS シンタックス・ファイルの作成

SPSS シンタックス・エディタ上で、SPSS シンタックス・ファイルを作成します。この段階で最低限必要なプログラムは、データの読み込み書式です。データの読み込みが成功したら、適宜、変数ラベル、値ラベルを作成して、データ・クリーニング作業に進みます。

③データ・クリーニング

データ・クリーニング作業は、入力ミスを発見する作業であり、度数分布表、クロス集計表などを駆使して、ありえないコードがないかどうか、データに論理的な食い違いがないかどうかをチェックします。

この過程で発見されたミスは、原票にあたってチェックし、ミスが確認されれば、素データ・ファイルを修正します。なお、欠損値、非該当などのコードが不統一な場合には、プログラム上でまとめて処理することもできます。

④統計的分析

データ・クリーニングが終了したら、本格的な分析に進みます。

図 2.1 統計的分析の作業手順（調査票からデータを作成する場合）

①素データ・ファイルの作成



② SPSS シンタックス・ファイルの作成

- ・データの読み込み書式の作成
- ・変数ラベル、値ラベルの作成



③データ・クリーニング



素データファイルの修正

- ・単純集計表の出力 ←
- ・クロス集計表の出力



④データの加工・分析

- ・新変数の構成（再コード、計算、IF 文）
- ・多重クロス表
- ・平均値の比較
- ・相関係数
- ・回帰分析
- ・分散分析
- ・因子分析など

2.2 クリーニングされた素データ・ファイルが、すでに用意されている場合

コーディング・ガイド（うまくアレンジされていれば、調査票で代用することもできる）に沿って、SPSS シンタックス・エディタ上で、SPSS シンタックス・ファイルを作成します。つまり、前項の②（シンタックス・ファイルの作成）からスタートして、③（データ・クリーニング）を飛ばして、④（統計的分析）に進めばよいわけです。

2.3 エクセル、SPSS データファイルなど別のファイル形式のデータとしてデータが用意されている場合

この場合がいちばん厄介です。以下のようなケースが考えられます。

2.3.1 SPSS 以外のソフト専用ファイルでデータを入手した場合

エクセル等、SPSS 以外のソフト専用ファイルでデータを入手した場合には、可能であれば、まず SPSS ファイルに変換してしまうことをお勧めします（→エクセル形式からの変換）。そうすると、2.3.2 の場合に持ち込むことができるわけです。

2.3.2 SPSS のデータ・ファイルを手に入れた場合

データを SPSS データ・ファイルで受け取った場合に、その先どうするかは、ケース・バイ・ケースで判断が分かります。

データがクリーニング済みで、かつデータの一部に特化した分析をするだけであるのなら

ら、テキスト・ファイルに変換するよりも、SPSS データ・ファイルを素データ・ファイルと見なして、それ以後の加工・分析をシンタックス・エディタで行う方が効率的です(→ get file の作成)。

しかし、データのかなりの部分を使って本格的な分析を行う場合や、データ・クリーニングが必要な場合には、面倒でも、テキストファイルに変換した素データファイルを生成する方が、結局は効率的です (→ ASCII 形式への変換テクニック)。

これらのケースについては、付録で扱うこととして、次章からは、テキスト形式の素データ・ファイルがあり、データ・クリーニングが終わっていない場合を想定して、話を進めます。